令和３年度

自己評価報告書

令和４年２月

阿南市立富岡小学校

１　評価内容

（１）教職員による内部アンケート

（２）児童アンケート

（３）保護者アンケート

２　アンケート対象者

（１）教職員　（　３３名）

（２）児　童　（４７８名）

（３）保護者　（４７８名）

３　実施時期　　令和３年１月末～２月中旬

分　析　結　果

《教職員教育活動の振り返り結果》

1　ポイントの高かったもの（よくできている・おおむねできているの合計が80％以上）

（１）「確かな学力」の育成

①学力の状況把握と学力向上に向けた具体的な手立て

⑥発達障害を含めた児童各個の個人差に対応した指導

（２）人権教育の推進

①学年･学級の仲間づくり　②自尊感情を育てるための具体的な手立て

③人権教育の年間指導計画に基づいた実効性のある人権教育活動の推進

④いじめや仲間はずしを許さない指導

（３）特別支援教育の推進

①発達障がいに対する支援　②特別支援教育コーディネーターや支援学級担任との連携

（４）生徒指導の充実

①めざす児童の姿の共通理解と具現化　②進んで行動できる児童の育成

④正しい言葉遣いや礼儀作法を身につけた児童の育成

⑤時間を守り，授業に集中する児童の育成　⑥学校のルールを守るための指導

（５）安全・防災教育の充実

①東南海地震を想定した、積極的な防災学習

②命を守るための安全点検・安全防災対策

（７）職員研修の充実

①校内研修に意欲的参加　②力量アップのための自主的・主体的な研鑽

（８）その他

①学年団のチームワークを大切にした教育活動　②富小教職員集団としての自覚

③担当校務を果たし、よりよい学校づくりに向けた提案や実践

④保健指導や食育の推進

⑤児童の体力向上に向けた実践

⑥教育公務員としての自覚とコンプライアンス意識の醸成

⑦業務の効率化の推進と勤務時間の適切な確保

⑧富小スローガン「早寝･早起き･朝ごはん･歩いて登校･元気な挨拶」の達成のための指導

2　ポイントが低かったもの（よくできている・おおむねできているの合計が70％以下）

（１）「確かな学力」の育成

③「見方･考え方を自在に働かせる学習」への取り組み

④ＩＣＴ機器等を活用した指導方法の工夫改善と授業力の向上　⑤自主学習ノートの推進

（２）人権教育の推進

⑤人権研修会等への参加

（４）生徒指導の充実

③進んであいさつができるようにするための具体的な手だて

（６）家庭・地域・関係機関との連携

①家庭訪問や電話連絡等による保護者との信頼関係の構築

②家庭（地域）への発信

③地域の行事やＰＴＡ活動への参加

3　学校教育活動全般に関する振り返り（主な意見と考察）

〈成果〉

・学習の仕方等が定着し、落ち着いた態度で授業に取り組むことができた。

・掃除を静かに一生懸命できるようになってきた。
・児童は素直に明るく学校生活が送れていた。
・学校のルールを守り、真面目に取り組む児童が多い。
・自分から進んで人のために動ける児童が多い。
・規範意識が高い。
・タブレットやプロジェクターの導入により、デジタル教科書やアプリ等を活用した効果的な指導ができた。
・ＩＣＴ機器に触れることで、教員も児童も必然的にＩＣＴ活用能力が高まってきた。
・個々に目標退庁時刻を設定することで、仕事の効率化を意識して働き、平均勤務時間が短くなった。
・中庭の遊具や施設設備等が新しくなり、安全に使えるようになった。
・非接触型水栓や非接触型消毒等の整備により、感染防止対策がしやすい環境が整ってきている。

〈課題〉
・個々の学力面、生活習慣等の差が激しく二極化している。
・全体の前で声を出す場面では声が小さい。表現力の向上が必要。
・進んで挨拶ができない児童が増えている。
・ＩＣＴ機器の導入により、整備に時間を取られていたため、効果的な学習実践のために教員のＩＣＴ活用能力のさらなる向上が必要。
・トイレを使いやすいように、もっと洋式便器の増加を進めるといい。
・校舎の老朽化が進んでいる。教室の床や廊下壁面の塗装の剥離などが増えてきている。
・児童の安心安全な環境を最優先とした施設設備の維持管理が重要。プールの内外壁など。
・バス通学で利用している停留所（待合場所）が耐震面で気になる。
・現金集金をなくし引き落としシステムにする。

４　総括

昨年と比較するとポイントが上がった項目と逆に下がった項目がいくつかある。Ａよくできている・Ｂおおむねできているという肯定的回答の合計が、年度当初に目標値として設定した80％を達成できた項目が35項目中25項目と多く、昨年度から６項目増えている。そのような中でも、Ａよくできているのポイントが最も多かったのは、「（２）－④いじめや仲間はずしを決して見逃さず、それらを許さない指導を貫くことができたか」で肯定的な回答は100％であった。本校が大切にしている自分の大切さとともに他の人の大切さを認める人権教育への取り組みを教職員が自覚していることがよくわかる。しかし、その反面、「（２）－⑤教職員自らが人権教育の研修会等に積極的に参加し、人権教育推進のための力をつけることができたか。」では、コロナ禍の影響で研修会自体が行えない状況もあったが、教職員が自ら取り組んでいこうとする体制や時間外勤務との関連が課題になっていると考える。

「（１）－①児童の学力の状況を把握し，学力向上に向けた具体的な目標や手だてをもって取り組むことができたか。」では、肯定的な回答が85.7％であるにもかかわらず、「(1) －④ＩＣＴ機器等を活用し、指導方法の工夫改善に努め、授業力の向上に取り組むことができたか。」では、肯定的回答が60.7％となり、設定目標値の80％を大きく下回っている。これは、ＧＩＧＡスクール構想におけるＩＣＴ環境が整い本格的な学習がやっと始動した状況が表れたものである。今後、ＩＣＴ機器による効果的かつ多様な学習方法を探り、定着させていく必要がある。

（３）個々の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進では、「（３）－①障がいの内容・程度や教育的ニーズに応じた支援策を講ずることができたか。」「（３）－②特別支援学級担任もしくは通常学級担任との連携を図る中で，具体的な手だてを講ずることができたか。」の項目で肯定的な回答が90％を上回っていた。教職員の児童個々へのきめ細かな支援が、規律を守ったり落ち着いた学校生活を送ったりする規範意識の向上につながっていると考える。

（４）社会の変化に対応した生徒指導の充実では、１項目を除いたすべての項目で肯定的な回答が80％を上回った。特に、「（４）－④正しい言葉遣いや礼儀作法を身につけた児童を育て

ることができたか。」では、昨年度より16.1ポイント上がり82.8％となっている。今年度は、年度途中に、本校の生徒指導についてＰＤＣＡサイクルでの見直しを図り、改善ポイントを焦点化して学校全体で指導を進めたことも影響していると考える。現時点での児童の姿から見える問題点を洗い出したり、教職員間の認識のズレを補正したりしたことがポイントアップにつながったようである。教職員が同じ軸で指導することを意識したことが生徒指導の充実につながった。今後も継続し、徹底していきたい。

一方、「（４）－③自分から進んで大きな声であいさつができるようにするための具体的な手だてを講じたか。」では、64.3％となり目標値を大きく下回った。これは、コロナ禍の影響もあるが、感染対策を重視するあまりにあいさつ奨励を積極的に指導できなかったことが要因だと考える。相手に聞こえるような声で自主的にあいさつができるよう、今後も指導を継続していきたい。

教職員の勤務状況を見てみると、すべての項目が目標設定の80％を上回っていた。「（８）－②教職員集団としての自覚を持って教育活動を進めることができたか」では、肯定的回答が100％となり、協働体制が確立されていることがうかがえる。また、「（８）－⑦業務の効率化を進め、勤務時間の確保を適切に行うことができたか。」では、肯定的回答が昨年度より、10.9ポイント上がり86.7％となった。これは、毎日各自が設定した退庁時刻までに仕事を終わらせようと計画的・効率的に働いたり、感染リスクを減らすために早めに退庁したりする教職員が増えたことが結果につながったと考える。働き方に対する教職員の意識が変わってきたと言える。

しかし、勤務時間調査では、超勤１か月当たり約60時間超えている教職員が約10名いるという課題が現実にある。今後、工夫している働き方を共有したり、業務の見直しをしたりして、超勤時間が減少するように努めていきたい。

《児童アンケート結果》

１　ポイントが高かったもの（Ａそう思う・Ｂだいたいそう思うの合計が90％以上の項目）
①学校生活は楽しい。
②友だちに優しくし、なかよくしている。
⑦宿題や自主学習をきちんとするようにしているか。
⑨時間いっぱい、一生懸命掃除をしている。
⑪朝ごはんをきちんと食べて、学校にきている。
⑬地震や津波の避難の仕方が分かり行動できる。
⑭先生は勉強を分かるように工夫して教えてくれる。
⑮先生はがんばったことをほめてくれる。
⑯先生はしてはいけないことをしたとき、きちんとしかってくれ心配してくれる。
⑰先生は学級でいじめやトラブルがあったとき解決してくれる。
⑱阿南市（富岡町）という町がすきだ。

２　ポイントが低かったもの（Ｃあまり思わない・Ｄそう思わないの合計が15％以上の項目）
③先生･友達･地域の人に自分から進んであいさつしている。
⑤今の学年で習った計算ができ、漢字もよく覚えている。
⑥タブレットやデジタル教科書を使うようになり、勉強が分かりやすくなった。
⑩休み時間は外で遊んだり，体育の時間は楽しく運動したりしている。
⑫体調が悪いとき以外は、歩いて登校している。

３　総括
全体的に16項目中11項目が90％以上、６項目が80％以上と高い評価である。
上記にもある、ポイントが低かったものについては、昨年度より２項目多く５点となり、それらについては改善すべきことと捉えている。特に、「⑪体調が悪いとき以外は、歩いて登校している。」は、Ｄそう思わないの割合が目立つので、歩いて登校するということを、今後も児童に意識づけていくことが大切である。児童の健康面（肥満傾向ぎみの児童の増加）の課題からも、根気強く指導していきたい。また、この項目については、教職員の振り返りの中にも課題としてあげられている。家庭の事情や安全面等の課題があって難しい側面があるが、保護者への呼びかけや児童への指導を継続して行っていく。
「③先生・友だち・地域の人に自分から進んであいさつをしている。」については、コロナ禍の状況も影響していると思われるが、日常生活の中で、自分からあいさつができていなかったり、声が小さすぎたりという実態がある。コミュニケーションの一つとしても意識づけ、今後も、児童をしっかりと見取り、生活に関連づけながら「あいさつ」の大切さや意義（価値）が実感できるような指導をしていきたい。
また、「②友だちに優しくし、なかよくしている。」「⑯先生はしてはいけないことをしたとき、きちんとしかってくれ心配してくれる。 」「 ⑰先生は学級でいじめやトラブルがあったとき解決してくれる。」では、肯定的な回答がほぼ100％である。このように、自分も人も大切にする教育活動を行っていくことは互いを尊重し合う児童を育むこととなり、学級や学校が安心・安全な自分の居場所に繋がっていくと考察する。
今後は、評価ポイントが低かった５項目が改善できるよう、富小スローガン「早寝･早起き･朝ごはん･歩いて登校･元気な挨拶」の指導を積極的に行い、心身ともに健康な児童の育成に努めたい。そして、ＩＣＴ器機を活用した効果的な学習を追求し、学力の向上を図っていきたい。

《保護者アンケート結果》

【学校教育】について

すべての項目で、Ａよくできている・Ｂおおむねできているの合計が目標値の90％を越えていることから、本校の教育活動について保護者から理解を得ているものと考える。

その中でも、「（３）学校は、命を大切にし、健康な体づくりのための教育活動に取り組んでいる。」では、肯定的な回答が97％になる。これは、学校が命を大切にした教育活動に取り組んでいることを保護者も理解しており、自分も他人も大切にする学校の風土を好意的に受けとめてくれているからだと考える。また、「⑨先生は、子どものがんばりを認め、よさを伸ばそうとしている。」では、肯定的な回答が95.5％となっている。これは、児童のよさの伸長や自尊感情の向上に努めようと、学校全体で行ったポジティブ支援の取組が、児童の姿を通して保護者に伝わった結果だと考える。この取組は、教職員から児童へ、そして児童間へと広がり、認め合う仲間づくりへとつながっていった。「（７）学校は、南海・東南海地震に備えて積極的に防災教育に取り組んでいる。」では、昨年度より3.4ポイント上がり92.9％となった。児童の防災意識は高いが、避難訓練が十分に実施できず不安を感じている児童がいる。南海トラフ大地震・津波への関心が高まる中、今後はより実効性があり、家庭・地域と連携した防災教育を推進していく必要がある。

【家庭教育】について

昨年度と比べて、やや肯定的な回答のポイントが下がっている。「(16) ゲームの時間を決めている」では5.4ポイント下がって62.5％、「⑲子どもに決まったお手伝いをさせ、働くことを大切にしている。」では4.5ポイント下がって69.8％となっており、目標値の80％を大きく下回っている。これらのことは家庭教育の問題ではあるが、児童の教育は、学校・家庭・地域が緊密に連携をとりながら一致協力して取り組んでいく必要がある。

さて、全項目の中で肯定的な回答が最も高かったのは、「⑭学校のきまりや交通ルールなどを守らせるようにしている。」で、98.１％である。これは、日頃から感じている保護者の規範意識の高さが表れた結果だと考える。家庭教育においてもその姿勢が一貫されていることがうかがえる。「(20) 家庭で津波避難や防災について話し合っている」では昨年度より6.4ポイント上がって73.7％となっているが、まだ目標値を下回っている。上記にある学校教育での防災教育と連動していることから、引き続き家庭と地域と連携した防災教育を推進し、充実を図りたい。

【ＰＴＡ活動】について

「(21) 研修会や奉仕作業等のＰＴＡ活動に進んで参加」では、昨年度と同様で肯定的な回答は、44.1％と、他の項目と比べてみるとかなり低い。「(22) 各種ＰＴＡの会や事業の内容について理解し、満足している」も昨年度と同様、約76％となっている。大規模校がゆえに「だれかがやってくれるだろう」という他人任せの意識が働いているのかもしれない。また、本年度は新型コロナウイルス感染の影響で研修会及びＰＴＡ活動自体が縮小されたためＰＴＡとの連携が十分に図れなかったのも影響しているのだろう。しかし、ＰＴＡ会長をはじめ他の役員や保護者の中には、児童のためにと、率先してＰＴＡ活動に参加してくださる熱心で協力的な方が多い。このコロナ禍においても、何かできることはあると可能性を見出し、一つでも多く行事等ができるように活動を創り出していく保護者の姿がある。本校はＰＴＡ戸数約380戸の大所帯であり、全保護者の協力を得るという難しい側面はあるが､それだけの人数が児童のために力を合わせると、計り知れない力となる。今後、発信の仕方などに工夫を加え、できるだけ多くの方がＰＴＡ活動に意義を感じて、主体的に取り組んでいけるよう努めていく必要がある。